

第 28 回電波功績賞表彰式を開催

2017年6月15日（木）、第7回定時総会に引き続き、第28回電波功績賞表彰式が開催されました。まず、あかま総務副大臣からご祝辞を頂戴し、総務大臣表彰の受賞者の方々に表彰状が授与されました。ついで、当会の松井代表理事から一般社団法人電波産業会代表理事表彰の受賞者の方々に表彰状が贈呈されました。

表彰状受領後、受賞者を代表して河原 敏朗様（株式会社 NTT ドコモ無線アクセス開発部 担当部長）よりご挨拶がありました。



電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列

矢板様 中舎様 笠松様 坂口様 小倉様 恵良様 河野様 岩木様 福原様 杉山様 藤井様 水本様

前列

富永基盤局長 河原様 小西様 中村様 浅見様 羽鳥委員長 あかま副大臣 松井代表理事 阿部様 深澤様 斉藤様 森本様 渡辺電波部長

1 総務大臣表彰

(1) 「FDD/TDD キャリアアグリゲーション技術を用いた超高速・大容量 LTE-Advanced システムの実用化」

株式会社 NTT ドコモ 3.5GHz LTE 開発グループ
代表 河原 敏朗 殿 (株式会社 NTT ドコモ R&D イノベーション本部
無線アクセス開発部 担当部長)

KDDI 株式会社 FDD/TDD CA 開発・実用化チーム
代表 小西 聡 殿 (KDDI 株式会社 技術統括本部 モバイル技術本部
モバイルアクセス技術部 部長)

LTE-Advanced システムとしてキャリアアグリゲーション技術を活用した高速・大容量化を実現するため、既存 FDD 帯の LTE 技術と TDD 帯の LTE 技術若しくは WiMAX2+ 技術を組み合わせ、下り最大 370Mbps の高速通信サービスを実現すると共に、国際標準化にも寄与し、2016 年春に国内でのサービス提供を開始するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「700MHz 帯の終了促進措置に伴う周波数移行の推進」

日本放送協会 700MHz 帯周波数移行チーム
代表 中村 栄人 殿 (日本放送協会 技術局 計画部 副部長)

日本テレビ放送網株式会社 700MHz 帯周波数移行チーム
代表 浅見 洋介 殿 (日本テレビ放送網株式会社 技術統括局 技術戦略部 主任)

株式会社テレビ朝日 700MHz 帯周波数移行チーム
代表 阿部 健彦 殿 (株式会社テレビ朝日 技術局付
株式会社テイクシステムズ出向)

株式会社 TBS テレビ 700MHz 帯周波数移行チーム
代表 深澤 知巳 殿 (株式会社 TBS テレビ メディア戦略室 担当部長)

株式会社テレビ東京 700MHz 帯周波数移行チーム
代表 斉藤 一 殿 (株式会社テレビ東京 技術局 技術開発部 副参事)

株式会社フジテレビジョン 700MHz 帯周波数移行チーム
代表 森本 聡 殿 (株式会社フジテレビジョン 総合技術局 技術業務センター
計画部 シニアエンジニア)

700MHz 帯の終了促進措置に伴う FPU と特定ラジオマイクの周波数移行において、新周波数帯装置の開発、伝送実験の実施、技術標準の策定などを協力して進めると共に、周波数共用のための運用調整のスキームを確立するなど、円滑かつ短期間での周波数移行と電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「ブラジルにおける地上デジタルテレビ放送日本方式 (ISDB-T) の採用及び円滑な導入並びに同方式の国際普及への貢献」

オリンピオ・ジョゼ・フランコ 殿 (ブラジルテレビ技術協会 代表理事)

ブラジルにおける地上デジタルテレビ放送の方式選定に際し、ブラジルテレビ技術協会会長等の立場から、日米欧 3 方式の比較検討を経た上で日本方式 (ISDB-T) が最も優れた方式である旨の報告を同国政府に行うなど、同国の日本方式採用に主導的な役割を果たすと共に、同国における円滑な導入及び中南米諸国等における国際普及に大きく貢献した。

2 一般社団法人電波産業会代表理事表彰

(1) 「テラヘルツ波無線伝送技術の研究開発」

日本電信電話株式会社 テラヘルツ波無線伝送技術研究グループ
代表 矢板 信 殿（日本電信電話株式会社 先端集積デバイス研究所 主幹研究員）
株式会社富士通研究所
代表 中舎 安宏 殿（株式会社富士通研究所 デバイス&マテリアル研究所
主管研究員）
国立研究開発法人情報通信研究機構
代表 笠松 章史 殿（国立研究開発法人情報通信研究機構 未来 ICT 研究所
上席研究員）

テラヘルツ波帯における高度なモジュール化構成技術等の各種要素技術を確立し、テラヘルツ波小型高速無線送受信装置を世界で初めて実現すると共に、送信技術・受信技術・計測技術を確立し、実空間を利用して最大 40Gbps のデータ伝送を日本で初めて実証し、更に、研究開発成果に関する国際標準化活動を積極的に推進するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「27MHz 帯 沿岸漁業用統合海岸局の開発・実用化」

坂口 忠男 殿（古野電気株式会社 システムソリューション ビジネスユニット
ソリューション開発 1 課）
小倉 登喜男 殿（古野電気株式会社 国内営業部 東北支店 石巻営業所）

東日本大震災からの本格復興を目指して「27MHz 帯沿岸漁業用統合海岸局」が構想されたことに対応し、海岸局一局あたりの通信エリアを拡大すると共に、海岸局間をネットワークで繋ぎ、また、音声通信に加えデータ通信を可能とし、非常用電源にハイブリッド発電機も採用することで、災害に強いシステムを開発・実用化することにより、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「デジタル型 FM 変調器の開発と FM 同期放送システムの実用化」

山口放送株式会社
代表 恵良 勝治 殿（山口放送株式会社 技術局 技術部 部長）
日本通信機株式会社
代表 河野 憲治 殿（日本通信機株式会社 執行役員 技師長）
株式会社 NHK アイテック
代表 岩木 昌三 殿（株式会社 NHK アイテック 中国支社 技術部 統括部長）

FM 補完放送を実施するにあたり、隣接する基幹局、中継局から同一周波数で同期した電波を発射する FM-SFN (Single Frequency Network) を実現するために、高精度デジタル型 FM 変調器を開発し、フィールド実験によるデータ検証を実施すると共に、山口県内 4 局の FM 補完局からの同期放送を開始するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(4) 「FPU 向け 2K H.265 CODEC の開発」

日本電気株式会社 放送・メディア事業部

代表 福原 健志 殿 (日本電気株式会社 放送・メディア事業部 第三技術部
部長)

700MHz 帯からの周波数移行に伴う FPU 装置の映像伝送容量削減に対応するため、圧縮効率を向上させると共に、低遅延処理を実現した FPU 向け 2K H.265 CODEC を開発し、伝送容量の削減及び画質向上をもたらし、放送素材伝送の周波数移行における画質劣化の懸念をなくし、周波数移行と電波の有効利用に大きく貢献した。

(5) 「VoLTE ローミングの新方式確立による世界初実用化」

株式会社 NTT ドコモ VoLTE ローミング開発チーム

代表 杉山 一雄 殿 (株式会社 NTT ドコモ ネットワーク開発部 部長)

VoLTE における国際ローミングサービスを早期に提供するため、従来方式 (LBO 方式) と比較して、開発/試験に要する時間を短縮し、かつ、安価にサービス提供が可能となる新方式 (S8HR 方式) の開発、国際標準化を進め、2015 年 10 月に新方式による世界初の商用サービスを開始し、以後米国等へのサービス利用拡大を図るなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(6) 「930MHz 帯業務用移動通信サービス (MCA) 対応ダクト干渉キャンセラーの実用化」

ソフトバンク株式会社

代表 藤井 輝也 殿 (ソフトバンク株式会社 テクノロジーユニット
技術戦略統括 フェロー)

一般財団法人 移動無線センター

代表 水本 伸二 殿 (一般財団法人 移動無線センター 事業本部 技術企画部長)

上り回線周波数を 930~940MHz へ移行した業務用移動通信サービス (MCA) の無線中継局において、ダクト伝搬現象により発生する干渉妨害を低減する「930MHz 帯ダクト干渉キャンセラー装置」を開発することにより、MCA 無線中継局の通信品質を通信に支障のない程度にまで改善し、電波の有効利用に大きく貢献した。



表彰式における
松井代表理事の挨拶



表彰式における
あかま総務副大臣のご祝辞



表彰式における
羽鳥選考委員長のご挨拶



受賞者を代表して
河原 敏朗様のご挨拶